

広報さくら

◆◆ 第113号 ◆◆ 令和4年3月1日
発行:日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- ごあいさつ……………会長…………… 2
- ごあいさつ……………学校長…………… 3
- 誠祭…………… 4~10
- 強歩大会…………… 11
- 後援会活動報告・編集後記…………… 12



皆様には、日頃より後援会活動にご協力いただき、大変ありがとうございます。

早いもので、後援会会長の大任を拝してより、もう1年が過ぎようとしています。

一昨年に続き、今年度の活動も、新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんど活動が出来ないまま、日にちだけが過ぎていったように感じます。

思えば、一昨年2月に実施した「強歩大会」で、力走した生徒たちに豚汁をふるまったのが、後援会としての最後の行事になってしまいました。

一昨年に引き続き、後援会の伝統ある行事である「誠祭でのバザー」「日本大学研修会」も中止を余儀なくされ、後援会の方々とも会うこともままならないといった状況が続きました。

ようやく昨年11月に、令和3年度の新体制の出発となる第1回役員会・委員総会を開催することが出来、スタートいたしました。そして、2月の「強歩大会」、3月の「卒業謝恩会」に向けての準備を開始。さあ、いよいよこれからと思いましたが、今年に入りオミクロン株により感染者が急増し、今後の活動についても不透明な状況となっております。

私も、ここまでパンデミックが続くとは予想もしていませんでした。誰も想像していなかった状況であると思います。

また、私たち以上に、子供たちも大変に辛い思いをしていると思います。貴重な3年間を、コロナ禍によって制限ある学校生活を送らなけれ

ばならないことは、本当に残念です。

しかし、冬は必ず春となるように、どんな暗闇も必ず夜明けが来るように、この困難な時期を大きなバネとして、無限の未来に向け、大きく飛躍して行ってほしいと願うばかりです。

まだしばらくは、新型コロナウイルスとの闘いも続くと言われていています。いや、闘いというよりも、新型コロナウイルスとどう共生していくかと言った方がいいかもしれません。

後援会活動も、今後どのように活動を進めていくのか暗中模索の状況ですが、後援会の皆様と知恵を出し合い、コロナと共生していく中での最良の後援会活動を進めていきたいと思っています。

学校創立とともに後援会は設立され、数多くの諸先輩方のご尽力により、他の学校にはない、歴史と伝統ある素晴らしい後援会となりました。私自身、今までPTA活動に携わったことがなく、6年前に長男が在学中に、当時の後援会会長の熱心な誘いがあり、後援会の役員を初めてさせていただきました。当初は、なかなか馴染めず、休みがちだった私を、役員先輩が根気強く引っ張ってくださり、そして何より同学年の皆さんが、何度も励ましてくれたおかげで、本当に楽しく活動をさせていただくことが出来ました。今でも感謝の思いでいっぱいです。

今も、子供たちがより良い学校生活を送れるよう、また明誠高校の発展のために、多くの方が活動してくださっております。今は大変な状況かもしれませんが、皆様が楽しく活動出来るよう、今後も真摯に取り組んで参ります。

今年の正月も、厳冬の箱根路を走り抜けた箱根駅伝に大いに盛り上がりました。タスキを必死につなぐ選手たちの力走に感動した人も多いと思います。私たちも、後輩たちへ後援会の伝統のタスキをつなげていきたいと思えます。これからも皆様には大変お世話になりますが、ご協力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、後援会会長として至らぬことが多々あったと思いますが、校長先生はじめ教職員の皆様、後援会の皆様のお力をお借りし、ここまで務めることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



ご卒業おめでとうございます。

お子様が本校の課程を無事終了し、ここに新たな出発点に立たれたことを心から祝福申し上げます。

今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受けることとなってしまいました。

マスクの着用はもちろん、毎朝のサーマルカメラによる検温とアルコールによる手指消毒はすっかり日常の光景となりました。1、2学期は時差登校による短縮授業で学校生活を送りました。秋から年末にかけ少しずつ感染者は減少し、街にはこれまでの人出が戻ってきて、飲食店やイベントにも活気を感じられるようになりました。本校でも体育祭や文化祭、芸術鑑賞教室を行うことができ、学校という場所だからできる体験をしてもらいました。

ところが喜んだのも束の間、令和4年に年が変わると、オミクロン株を中心に再び感染が爆発的に増えてしまいました。この原稿を執筆している1月中旬現在では、卒業のタイミングでどのような状況になっているのか分かりません。

コロナ禍となって2年経った今でも終息の見通しは立たず、国や自治体の対応も後手に回ってしまっている状況です。本校としても情報を精査しつつ、冷静にその場その場で判断をしております。そのような状況の中でも後援会の皆様には、西川会長を中心に学校内外の情報を共有していただき、ご協力していただきましたことに対して感謝申し上げます。

これから新たなステージへの歩みを進める卒

業生の皆さんには「和顔愛語」という言葉を送ります。『大無量寿経』という経典の中に、「和顔愛語にして、意を先にして承問す」という一節があります。この「和顔愛語」とは、和やかな笑顔と思いやりのある話し方で人に接することです。そして「意を先にして承問す」とは相手の気持ちを先に察して、その望みを受け取り、自分が満たしてあげるという意味です。つまり、「和顔愛語にして、意を先にして承問す」とは、和やかな顔と思いやりの言葉で人に接して相手の気持ちをいたわり、先に相手の気持ちを察して、相手のために何ができるか自分自身に問いただすということになります。辛いときや嫌なことがあったとき、愚痴をこぼしたくなる時、そんなときこそ、まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接する姿勢、それが「和顔愛語」です。しかし、いざ「和顔愛語」を実践するとなると、簡単ではありません。気分が悪いときはなかなか笑顔になれないものです。愛情を感じていない相手に、思いやりのあるやさしい言葉をかけるのも、抵抗があるものです。そこで心掛けて欲しいのが「先意承問」つまり「相手のことを先に考えて、与えること」です。笑顔になってほしいのならば、まずは相手に笑顔を見せるのです。優しい言葉をかけてほしいのならば、まずは相手に優しい言葉をかけてあげることです。自分から先に相手の気持ちを重んじて、相手の幸せを考えるのです。大切なのは、思いやりです。その心を仏教では「慈悲」といいます。私たちが穏やかに生きるためには、みんなが「慈悲」の心を持つことが大切です。自分も相手も、ともに思いやることができていれば、人は皆、心が穏やかに日々を過ごすことができると思います。

コロナ禍のために、十分な高校生活を与えられず、申しわけなく思いますが、卒業生各人が本校で経験し学んだことをもとに、他人を思いやりながら能力を十分に発揮して欲しいと思います。そして有為な人材として活躍されることを教職員一同祈念いたしております。

最後になりますが、保護者の皆さまにはこれまでの本校に対するご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも本校を温かく見守っていただければ幸いに存じます。

1年生クラスパフォーマンス



1-1



1-6



1-2



1-7



1-3



1-8



1-4



1-9



1-5

今年度の誠祭も生徒のみの参加で 11月13日～14日に開催されました。例年後援会活動の一環としてバザーやお茶処の出店をしておりますが、今年度も残念ながら出店中止となりました。

※十分な感染症対策を行った上で、生徒の体調面に配慮しパフォーマンス中はマスクを外す事が許可されています。

2年生クラスパフォーマンス



2-1



2-6



2-2



2-7



2-3



2-8



2-4



2-9



2-5



2-10

3年生クラスパフォーマンス



3-1



3-6



3-2



3-7



3-3



3-8



3-4



3-9



3-5



部活動



ダンス・チア部





誠 祭

11月13日~14日



2月19日(土)に2年振りに開催される強歩大会に向けて、後援会支援活動として私たち実行委員会が活動をスタートさせたのは12月のことでした。未だに収束の兆しがないコロナ禍ということもあり、後援会活動自体のスタートが例年に比べると大分遅くなったものの、一時は感染状況も落ち着いた状況だったので、限られた短い期間で話し合いを重ねるなど準備を進めていました。

例年と同様に生徒たちに振舞う豚汁作りやコースの安全確保のためのコース誘導などの支援活動を行うため、役員・委員が各担当に分かれて2・3年生委員の皆様のアドバイスを頂きながら打合せを繰り返し、本番を向かえようとしていました。

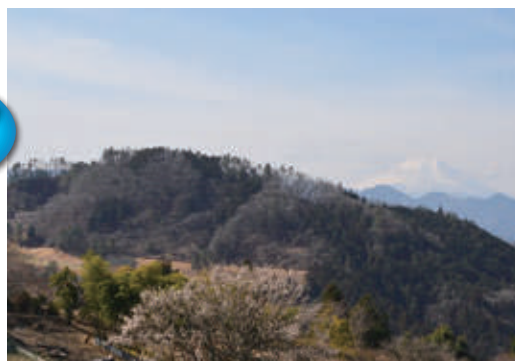
しかし、新年を迎えると新たなオミクロン株が再び猛威を振るい、瞬く間に感染拡大が起こり、学校活動自体に影響を与え始め強歩大会も中止せざるを得ない状況となりました。生徒の安全を最優先したことはもちろんのこと、保護者の安全にも配慮した結果ですので仕方のないことだと思えます。とはいえ大会に向けて準備を進め取り組んだことは、決して無駄ではなく次に繋がる何かを得ることができたと思えます。

大会は中止になってしまいましたが、支援活動に協力していただいた役員・委員、保護者の方々、そして運営に尽力してくださった先生方に厚く御礼申し上げます。これからも後援会活動にご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

強歩大会予定コース



全長14kmスタートしてから第1チェックポイントの先、上野原カントリークラブの入り口をすぎたところまで、急な上り坂が続く。その後は、富士山も眺められる見晴らしのいい高台を走り、林のなかへ。走りごたえ(歩きごたえ?)のあるタフなコースです。



令和3年度 後援会活動報告



◆編集後記◆

早いもので2年以上続いているコロナ禍の中、今年度も終わろうとしています。広報部の活動もなかなか思うようにはできませんでしたが、「広報さくら」を通して学校の様子や子供達の活動を少しですがお知らせできたのではないかと思います。

我慢の多い高校生活だと思いますが、その分、子供達の未来が明るく楽しいものになることを祈るばかりです。今年度も皆様方のご協力により「広報さくら」を発行する事ができました。最後に発行にあたりお忙しい中、原稿をお寄せくださいました土屋校長先生、後援会役員の皆様、写真をご提供くださいましたニシノフォト様に心よりお礼申し上げます。これからも後援会活動の様子をお届けできるよう広報部一同努めて参りたいと思います。

今年度もありがとうございました。

(広報部一同)